

交通災害防止月間

12 月に入り気温がグッと下がり、雪の便りも聞こえてきました。

冬の路面状況は刻一刻と変化します。

そこで冬道の運転に気を配る事案をまとめました。

冬道の走行のポイント

減速は早めに

雪道では特に「止まること」が難しくなります。

赤信号で止まる時など、早め早めに減速しないとスリップしてしまうことがあります。また急な減速により、後ろの車がスリップして追突される危険もあります。

ゆとりを持って、まずスピードを落とすことを心がけましょう。

「急」のつく運転は厳禁！

凍結路・積雪路では、通常の運転と違いタイヤのグリップ力が格段に落ちています。

「急ハンドル → スピン ・ 急ブレーキ → スリップ ・ 急加速 → ホイールスピン」の原因となります。

通常の走行でも同様ですが、冬道では特に「急」のつく運転は厳禁です。

道路状況に注意を！

冬道では、一見、雪や氷がなくても、日陰や橋の上が氷結している場合などがよくあります。

こうした場合でもあわてないように常に道路状況に気を配ることが必要です。

チェーン装着は早めに

タイヤにチェーンを装着する場合、いつ、どの時点で装着すべきかの判断が重要となります。

「対向車がチェーンを装着している場合」「坂道にさしかかる場合」「チェーン脱着場がある場合」などが目安となります。

また、チェーンを装着する場合は、脱着場がもっとも良いのですが、ない場合は、休憩所・レストランの駐車場など広くて水平な場所を選びましょう。

道路上での装着は大変危険ですので避けましょう。

発進はゆっくりと

雪道の場合、MT 車の 1 速で通常通りの発進をしようとすると、タイヤに駆動力がかかりすぎてホイールスピンを起こすことがあります。

クラッチをゆっくりとつなぎ、回転をあげすぎないように注意するか、2 速での発進をしましょう。

また、AT 車はクリープ現象を利用し、ゆっくりと発進するようにしましょう。

上り坂は高めのギアで

坂を上る場合は、坂の上りに入る前にあらかじめ坂の勾配に合わせて適切なギア（少し高めのギア）で上りましょう。アクセルの踏み込みを一定に保って気長に上ることがコツです。

下り坂は低めのギアで

下り坂は低めのギアを使い、エンジnbrakeを使いながら減速するようにしましょう。

ただし、急なシフトダウンは空回りを起こす可能性があるため変速は坂の手前で行いましょう。

AT 車では 2 レンジか L レンジを使うとエンジnbrakeを使うことができます。

凍結路面（アイスバーン）上では操作しない

凍結路面ではタイヤのグリップ力がほとんど失われるため、原則的にはなにも操作をせず、わずかに残ったグリップ力を殺さないように通り過ぎるのが安全です。

交差点・急カーブの手前・トンネル出口・橋の上・日陰などにアイスバーンはできやすいため、道路状況を観察しながらの慎重な運転が重要です。

新雪路の注意点

新雪路では雪にハンドルを取られたり、タイヤが空回りしてスタックしたりする場合があります。

タイヤが空回りした場合、さらにタイヤを回し続けると、どんどん深みにはまっていきます。余分な雪を取り除き、ゴムマット・チェーン等を敷いて、グリップ力を回復させるようにしましょう。古新聞等をトランクに積んでおくと、このようなときに活用できます。

ワダチを上手に使って走りましょう

新雪に隠れて思わぬ凸凹があったりするケースがあります。このような事態を避けるためにも新雪の道は避け、ワダチを利用して走る方法が無難です。ただし、ワダチは多くの車の走行で、凍結している場合があるためスピードには注意が必要です。さらに、ワダチから脱出し、右左折するときにもハンドルを取られないように慎重に運転しましょう。

雪の中で駐車するときの注意点

- 雪の壁にバックで突っ込まないようにしましょう。排気管（マフラー）が雪で詰まる場合があります。
- サイドブレーキを引いておくと凍結することがあります。
- 凍結防止のためワイパーブレードは立てておきましょう。
- 屋根から雪やつらが落ちてくる場合がありますので軒下等は避けましょう。